

○令和3年度 教育事業

「十勝岳に恋しちゃう♡大雪～登山を通して脳力を鍛えよう～」(R3.10.9(土)～10.10(日))



◆目的

- (1) 登山を通して、今までの生活や学校の中で学んだ知識や経験と、登山に必要な知識を相互に関連付けて考え、判断力を身に付けるための知識・技能を学ぶ機会とします。

登山を通して鍛える脳力を、総合的な判断力・思考力と考え、実施した。

◆参加実績 (定員20名)

参加28名 (小学4～6年生対象)

- | | | | |
|-------|-----|--------|-----|
| ・富良野市 | 2名 | ・小学4年生 | 5人 |
| ・旭川市 | 16名 | ・小学5年生 | 21人 |
| ・美瑛町 | 8名 | ・小学6年生 | 2人 |
| ・鷹栖町 | 1名 | | |
| ・比布町 | 1名 | | |

◆プログラム

【1日目 (10/9)】

① 「アイスブレイク」(25分)

○13:55～14:25

参加者と職員・ボランティアの間の緊張感を解消し、話しやすい雰囲気をつくるためにビンゴなどのゲームを行う。

② 「登山の練習をしよう」(165分)

○14:25～14:55

各グループのリーダー・サブリーダーを決めた。
パッキングの基本について学習した。

○15:00～16:00

リーダーが中心となって、出発前や持ち物の確認を行う。
登山当日は自分たちで行えるように、意識して準備をしてもらう。
実際にパッキングした荷物を背負って周辺遊歩道を歩く。

③ 「登山を学ぼう」18:45～19:15 (30分)

○山について知る

準備や計画のためには、情報を知ることが大切ということを説明。

- ・山の標高のみを伝えて、勾配をイメージするために断面図を書く。
- 十勝岳の模型を見ながら答え合わせをして、登る山のイメージをもつ。
- ・地形図を見ながら、明日のルートとチェックポイントを確認。
- 地形図を実物投影機で映し出ししながら、印をつける。
- 自分が登る山の起伏や距離などを調べる。
- ・水の量、食べ物について
- 自分に必要な水の量とカロリーを計算する。
- 水： $\text{体重 (kg)} \times \text{行動時間 (h)} = \text{水分量 (ml)}$
- カロリー： $7 \times \text{行動時間 (h)} \times \text{体重 (kg)} = \text{必要カロリー (kcal)}$
- ・個人の目標を立てる
- 1日目に学習した内容をもとにして、2日目の登山の個人目標を立てる。



④「登山の準備をしよう」 19:20～20:30 (70分)

○登山の計画を立てる

各チェックポイントまでの時間や休憩時間の設定など、グループでの決まり事などを話し合う。

「計画は立てるが、計画通りにいくとは限らない。計画や準備をしても、うまくいかないこともあるが、明日は自分たちの計画がうまくいくかどうかを確かめるための日。」ということ意識してもらおう。

※途中で次の日の天気予報を伝え、天候が崩れる可能性を伝える。

登山計画と個人の目標を掲示して、参加者同士が共有した。



【2日目 (10/10)】

①「チャレンジ！十勝岳に登ろう！」

前日に立てた計画を実行するために、グループごとに登山計画を見ながら登る。職員・ボランティアが時間を記録し、帰所後に計画の検証を行う。

→当日の登山は、強雨風のため目的地までは到着できず途中で撤退。

途中まで引き返して、グループごとに次の行動を話し合う。

結果として、全グループが下山の判断をすることになった。

強風の中でケガ人なく下山できたことは、事前に天候の変化についても話し合っ

て計画を立てられたことができていたことが大きな要因の一つではないかと考えている。



②「2日間のまとめ」

職員が記録した時間、個人・グループなどを参考にして計画や準備を振り返り、良かった点と悪かった点を洗い出す。



◆事業運営・企画のポイント

○参加者の考えを尊重すること

・自らの考えやグループでの考えを生かせるように、職員の意見が参加者の意見にならないようにする。

(安全管理の必要なことのみ、職員やボランティアが声をかける)

○安全管理体制を整備すること

・使用するコースを担当職員全員で下見し、必ず記録に残して共有できるようにする。(登山未経験のボランティアも参加できるように。)

・職員、ボランティア共に、事前踏査や対面での打ち合わせを必ず実施する必要がある。

◆参加者の声

□もしものときは無理をしないと計画を立てていたの、強風でも慌てずにできた。話し合うことができた

□地形図ではわからない急な斜面があったから、休憩する回数が増えてしまった。

□休憩ポイントでしっかりカロリーをとれた。

□地形図を元にして、正確な距離を測ったので、計画が順調に進んだと思う。

□登山で使う回数の多いものを取りやすいところに置いておいたから、休憩のときとかに早く取り出せて便利だった。

◆事業の成果と課題

① 小学5～6年生はおおむね考えることができていたが、小学4年生は個人差が大きかったので、参加対象に4年生を入れるかどうかは検討が必要。

② 自分たちの考えを実行するプログラムを段階的に実施すると、さらに参加者が活動内容を深く理解し、自信をつけたり、自らの成長を感じることができる。

(例) 1日目は軽登山。2日目に登山を行う。など

② 1泊2日ではチームとして活動することがあまりできなかったの、異年齢、異学校の児童のチームビルディングのために、2泊3日以上は必要。または、参加同士を理解するための時間を多くとる必要がある。

③ 悪天候の際に使用するコースの選択肢を増やす。

どのコースを使ったとしても、ねらいを達成できるようなコース設定をする。